

No. 17-61 特別講演会報告
社会の変動とエネルギーの関わりを考える
ーエネルギー安全保障と福島の産業復興ー

震災対応臨時委員会 幹事 中垣 隆雄（早大）

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電事故から6年が経過し、社会も大きく変動し続けています。今春には避難区域も2013年の再編時から1/3に縮小し、産業復興や帰還支援に向けた動きも活発化しています。一方、世界情勢は保護主義的な政治への変化の潮流の中で、エネルギー資源を海外に依存する日本は、エネルギー基本計画のS+3EのひとつであるEnergy Security確保のための舵取りがさらに難しくなっています。動力エネルギーシステム部門に設置されたこれらの問題における課題、方策を検討する震災対応臨時委員会では、その活動の一環として、エネルギーの安全保障を地政学見地から俯瞰的に捉え、資源調達リスクとオプションの多様化に対する理解を深めること、さらに、福島の浜通り地域の産業基盤の再構築を目指し、廃炉やロボット技術などの研究開発拠点化を推進する福島イノベーション・コースト構想の概要について専門家をお招きした講演会を第22回動力・エネルギー技術シンポジウムの前日に合わせ、豊橋商工会議所407会議室にて開催いたしました。当日は全国から26名の参加者がありました。

特別講演会に先立ち、震災対応臨時委員会・主査の小泉安郎氏（JAEA）から本特別講演会の趣旨説明がなされた後、「激変する世界情勢下における日本のエネルギー安全保障」と題し、講師の奥村直士氏（日本安全保障戦略研究所シニアフェロー）より講演1がありました。世界に大きな影響を与える大国、米・中・露が激動する中、依然として中東依存度の高いエネルギー資源の安定調達を中心とするエネルギー安全保障の見通しは極めて重要な課題の一つです。本講演では、主要国のエネルギーの供給と需要の現状と、資源の国際的な輸送における地政学的なリスク、特に中東資源国および日本のシーレーンの安全保障に対する理解を深めることを目的とし、激変する世界情勢とエネルギー社会の関わりを俯瞰的に考える機会を与えてくださいました。講師の奥村氏は当該トピックスにおいて非常に幅広い知識をお持ちであり、安全保障において考慮しておくべき様々なことを順序立てて網羅的に説明されました。その締めくくりとして、我々の子孫が暮らす未来社会でのエネルギーに関わるリスクの低減のために、国際社会と協力してどのような具体的な対策を講じておくべきか、理想・理念だけではなく結果を残して行くべきであると述べられました。

引き続き、「福島イノベーション・コースト構想とロボットによる産業復興」と題し、講師の高橋隆行氏（福島大学教授）より講演2がありました。福島県の浜通り地域を中心として、産業基盤の再構築を目指し、廃炉やロボット技術などの研究開発拠点化を推進する「福島イノベーション・コースト構想」が進んでおり、その中でも特に、ロボット技術を産業復興の重要な柱の一つに据えています。本講演では、まず、再生可能エネルギーの普及を含む福島イノベーション・コースト構想の概要を説明され、福島におけるロボット開発および産業育成の紹介を通して、エネルギーとロボット技術を中心とした地域再生を参加者とともに未来志向で考えてみる内容でした。講師の高橋氏は当該構想のロボット分野でのリーダーであり、重要な要素の一つである超小型・高出力の精密アクチュエータなどの特許技術で福島大学発のベンチャー企業を設立した実力者です。その経験を基に、復興事業では災害レスキューロボット等の完成体を求められるが、その市場は決して大きくなく、地元企業の発展や企業誘致による浜通り地域の経済的な自立復興を目指すには遠い目標を目指しながら、それに必要な様々な要素技術開発を進めること、地元の企業の強みを生かし、大学のシーズと結びつけることが重要であると説かれました。

両講演に対して活発な討論がなされ、社会の変動とこれからのエネルギーとの関わりについて広く意見交換したのちに佐々木隆副部門長の挨拶にて閉会いたしました。講師の先生方、参加者の皆様に震災対応臨時委員会より厚く御礼申し上げます。